口頭発表B④　14:15～14:35

ミニレポート相互閲覧を用いた オンデマンド型アクティブラーニングの試行

南川慶二
（徳島大学教養教育院，徳島大学理工学部）

１．はじめに

新型コロナウイルス感染対策のため、2020 年度は前期授業の開始が延期されたことに始まり、対面授業の実施が制限され、遠隔（オンライン）で授業を実施することが中心となった。前期の途中で一部対面授業が可能になった科目もあるが、受講者数が多い場合など、十分な感染対策が困難な科目では前期末まで遠隔授業を継続することになった。昨年度の当カンファレンスで報告したアクティブラーニング授業においても、オンライン化が必要となった。本報告では、まずはじめに遠隔授業の経験がない多数の講師が交代で担当するオムニバス授業において比較的容易に実施できるオンデマンド型授業の実践例を紹介する。続いて、同授業の中で筆者が取り入れたオンデマンド型アクティブラーニングの試行とその結果について述べる。

２．簡易なオンデマンド型遠隔授業の実施例

一般教養教育科目「消費者が主役の社会へ」は、消費者庁職員が非常勤講師またはゲストスピーカーとして毎回交代するオムニバス形式で実施している。受講者数が多いため感染対策で定員を減らした講義室では対面授業を実施できず、全 16 回を全てオンラインで実施した。講義担当者が毎回交代することに加え、受講者数が 130 人程度と多いことや、その大半が入学直後の１年生であることから、教員側も受講者側も全員が確実にオンライン化に対応できるかという点に不安があった。インターネットの通信状態や受講者のデバイス等に不具合が生じた場合、ライブ配信によるリアルタイムでは対処が困難であることを考慮して、この授業については全ての回を徳島大学の LMS（manaba）を用いたオンデマンド型で実施することにした。

講義資料は電子ファイルを各自がダウンロードできるように設定し、毎回小テストを実施するとともに、複数回のレポートを課して成績評価を行うことにした。遠隔授業の未経験者が短期間で準備して毎回交代で講義を担当するため、容易に実施できる方法を検討した。一般的にオンデマンド型では動画を用いる場合が多いが、動画の作成や編集を未経験者が一から行うには時間と手間がかかるため多少の困難を伴う。そこで、動画を作成せずに視覚教材と音声を別ファイルとしてアップロードし、受講者がそれらを同時に視聴することで動画と類似した環境を提供する方法を取った。視覚資料としては、PowerPoint 等のスライドの他に、対面授業で配付するために準備した PDF などのファイルをそのまま使うことができる。音声は IC レコーダーや PC で録音した MP3 ファイルを用いたが、デフォルトの設定で録音したファイルはサイズが大きいため、低音質に変換することや、短いファイルに分割するなどの方法で manaba にアップロードできるサイズに調節した。学生は音声ファイルを再生しながら手動で PDF 等のページをめくる操作が必要であり、ただ動画を視聴するだけの場合と比較すると、少しだけ余分な手間がかかることになる。

上記の形式でオンデマンド型の授業を開講した。毎回 manaba でその回を視聴して印象に残ったトピックスを書くことと、前回の内容についての簡単な小テストを解くことを課題とした。自由記述欄を設けていることに加え、manaba にはコメントや掲示板機能があることから、授業の実施方法についての不満があれば意思表示できるが、視覚資料と音声を分けていることについての言及は特になかった。受講生へのアンケートにおいて、オンデマンド型授業としての実施形態について意見を尋ねたところ、資料と音声を分けたことについて、予想以上に肯定的な意見が多かった。

例えば、「資料だけ見返すことが容易」「音声を繰り返し聴くことができる」などを多くの学生が利点として捉えていることがわかった。一方、少数ではあるが不満足という意見もあった。予想していた「動画の方が見るのが楽」という意見は１名だけであった。他の欠点としては、「視覚資料のどこを説明しているのかわかりにくい」という意見があった。対策としては、音声ファイルを分割して１つ１つを短時間にすること、「資料の〇〇ページを見てください」など、どこを見てほしいかを明確に話すことが挙げられる。また、「話すのが非常に遅い講師がいて、時間がかかった」というコメントがあり、顔の見えないオンデマンド型授業においては特に適度な速さで飽きさせずに話す必要性が示唆された。

以上のように、多少の不備な点はあるが好評であったことから、この方法はオンデマンド型授業の簡便な実施方法として有効と思われる。

３．オンデマンド型アクティブラーニング

上記の「消費者が主役の社会へ」で筆者が担当した回については、昨年度に学生同士の対話を取り入れたアクティブラーニングを実施したことを報告した[1)]。今年度は対面でのアクティブラーニングが実施できないことから、遠隔授業で実施できる方法を検討した。同時配信のライブ授業では出席している学生同士の対話を取り入れることも可能であるが、オンデマンド型ではリアルタイムでの話し合いができないため、代替法として、manaba のレポートを提出者が相互に閲覧・コメントできる機能を利用した。昨年度に学生同士の議論を取り入れた「ストローは環境を破壊するのか? 〜循環型社会における消費者の役割〜」と題した授業で、次のような課題を設定した。

(1)「プラスチックごみ問題解決のためにするべきこと」を生産者・消費者・行政の３つの立場から考えて、それぞれについて具体的な提案とその理由をミニレポートとして manaba に提出。

(2)他の提出者のミニレポートを閲覧・コメントできるように設定しているので、いくつか読んで自分と違う提案や意見を探して、自分のレポートの内容と比較して考察する。

(3)参考にした意見の提出者には、感想や意見、質問など、何かコメントを書き込む。

(4)ミニレポート相互閲覧結果を基に、最終レポートを提出。これは成績評価対象とするので他人の提出物を見ることはできない。

アクティブラーニングの感想を自由記述のアンケートで尋ねたところ、概ね好評であった。代表的な意見を例示する。

・今期はすべてオンライン授業となったため、他の受講者の方と交流ができず残念に思っていたため、意見交換もできて多くのことを学ぶことができよかった。

・manaba を利用したアクティブラーニングは遠隔授業という場面においてかなり有用であると思えた。この方法では自身の言いたいことをしっかり考えて述べることができ、また他の人の意見も聞き逃すことなく何が言いたいのかがはっきりとわかるため、普段のアクティブラーニングとは異なる利点があり、この方法も良いものであると思った。

・遠隔でのアクティブラーニングの形式もなかなか珍しく、zoom や teams を用いないことで大人数の講義でも混乱が生じないようになっていると思う。

・対面授業ならアクティブラーニングがもっと盛んに行えたと思う。しかし、ほかの方の意見が自由に見ることができ、その意見がとても興味深かった。

４．まとめ

オンデマンド型の遠隔授業では、資料を繰り返して確認できることに利点がある。レポート相互閲覧は、多数の意見を読んで深く理解することができるため、アクティブラーニングの一形態として有効であると考えられる。

参考文献

1. 南川慶二，プラスチック環境問題を共通テーマとする多面的アクティブラーニング授業の試行，大学教育カンファレンス in 徳島, B3, 2019.